



准教授

大沼 雅也

オオヌマ マサヤ

大学院国際社会科学研究院 国際社会科学部門

経営学部 経営学科

onuma-masaya-fr@ynu.ac.jp

社会科学
経営学

経営学

ユーザー・イノベーション
オープン・イノベーション

技術戦略
産学連携
医工連携

【研究概要】

私は、営利企業とは異なる主体(各種の専門家、研究者、ユーザー等)が、営利企業と協力しながら、いかにしてイノベーションを実現していくのかについて、経営学的な視点から研究を行っています。近年は、特に医療デバイス産業を中心に調査・研究を行っています。もう少し具体的にまとめると、主に以下のようなトピックがあります。

(1) 医工連携や産学連携等を通じた技術・製品開発プロセスと成果の関係に関する研究

この研究では、異なるタイプの人や組織が集まり、新たなモノを開発するプロセスでは、どのような組織的課題が生じ、それをどのように解消していくことが、最終的な成果に結びつくのかを研究しています。

(2) 医療技術の革新プロセスの解明

医療従事者が依拠するルーティーン(日々の診断や治療のやり方)は、既存の医療技術を基に構築されています。そうしたルーティーンが、新たな医療技術の登場によって、どのように変化していき、結果として医療の革新が実現していくのかを解明しようとしています。

【アドバンテージ】

(1) 実務に結びつく知見の導出

一つ目の強みは、現場の問題解決を大切にしている点です。丹念なフィールド調査を行うことで、現場で生じていることを肌感覚で理解できるようにしています。そうした調査を通じて情報を把握することは、質の良い経営学的な議論につながるだけではなく、実務的な問題解決に結びつく知見を得ることもつながると考えています。

(2) 「YNU文理連携による社会価値実現プロセス研究拠点」による活動

この研究拠点では、本学の理工系研究者と社会科学系研究者が協力しながら、新たな技術や製品が生み出され、それが社会に浸透していくプロセスに関して研究や教育を行っています。この拠点のメンバーの一員として活動することで、理学・工学や他の社会科学のアイデアを取り入れながら、研究を進めることができる点もまた、一つの強みになります。

【事例紹介】

近年、取り組んだ研究として「公的助成を受けた24の医療機器開発プロジェクトとその開発プロセス」を対象にしたものがあります。これは公益財団法人医療機器センターによる受託研究の一貫として進めたものです。その成果を基に、新たな医療機器の開発や事業化、実用化に取り組む企業やプロジェクトに対して、いくつかの知見をフィードバックしています。

■ 相談に応じられるテーマ

- 以下の取り組みにおける課題の明確化と解決方法等の検討
- ・産学連携や医工連携を通じた製品の開発や実用化
- ・新たな医療技術の普及促進に関する活動

所リサーチペーパー 18号, pp.1-36」 2016.

『ユーザーイノベーション研究の新たな展開』「日本経営学会誌 第34号, pp.26-36」 2014.

『技術の関係性の変化メカニズム:X線CTとMRIの普及過程を事例として』「組織科学 第43巻第1号, pp.53-66」 2009.

■ 主な所属学会

組織学会

日本経営学会

一橋商学会

European Group for Organizational Studies

■ 主な著書

『新旧「棲み分け」を実現する製品展開：主要各社によるX線CTとMRIへの資源配分と製品展開』「日本企業研究のフロンティア⑥」(一橋大学日本企業研究センター編, 第3章) 2010.

■ 主な地域活動

横浜青年会議所主催「ハマのリーダー育成塾：第2回 創造性を高めるためのマネジメント」2016年講師担当

■ 主な論文

『Professional User as Innovator: Organizational Problems in Collaborative Projects』「Proceedings of The XXVII ISPM Innovation Conference, pp.1-12」 2016.

『なぜ医療機器のイノベーションは難しいのか:「プロジェクト組織」をめぐる経営学的考察』「医療機器センター附属医療機器産業研究